



【事例 7】 茂原市 : 早野地域資源保全会

1. 組織の概要

協定締結年度	協定面積(ha)	構成員	集落数
平成19年度	15ha (田:15ha)	農業者11名、 13団体	7

2. 地区の概要

早野地区は茂原駅から南西へ約1.5kmに位置している集落です。

当地区はミニ開発の住宅が立ち並び、集落の8割以上が一般市民という、混住化の進んだ地域です。

早野地区の耕地面積は合計で48ヘクタールほどとなりますが、協定は耕地のまともまっている15ヘクタール部分のみとなっています。



集落の耕地の様子(ため池の上から望む)

3. 合意形成の経緯と組織の運営(経緯と運営の工夫等)

この地区は7つの小さな自治会があり、水利組合の役員が各自治会の役員宅に何度も足を運び、事業の趣旨を丁寧に説明して理解を得ています。

役員は2年交代の自治会役員と水利組合役員からなっていますが、自治会の役を終えても活動組織の役員は続けることとし、活動が円滑に行われるための工夫をしています。

4. 特徴的な活動について

草刈等については、PTAの皆さんが通学路を重点的に行い、その他の構成員は農道・水路を中心に共同活動を実施しています。活動を行う際には全構成員に文書で通知しているため、参加率は年々上昇しており、対策の浸透が進んでいることがうかがえます。

(1) 農村環境向上活動について

景観形成を主として、水路周りにアジサイを植栽し、揚水機場から水田までの間はコスモスを植栽しています。

そのことで、周辺環境がきれいになり、散歩する一般市民が増え、農業者との交流も生まれてきています。



水路周りに植栽されたアジサイ



コスモスの花が咲く水路沿いを散策する人たち

(2) 耕作放棄地対策について

この対策により、周辺環境の美化が進み、耕作放棄地に対する地権者の意識が変ってきています。

耕作放棄地の大部分で草刈が行われ、一部では水稻の作付けも行われるようになっていきます。ただ、排水不良の耕地は、作付けが困難となっているため、今後は、客土等の検討を行う予定です。

(3) 交付金の効果的活用

協定面積が小さく、支援交付金の交付額が少ないため、計画的に積み立てを行うとともに、交付金で購入するものは最小限度に抑え、個人所有の機械等の借り上げで済ませるなど、効果的・効率的に交付金を活用しています。

(4) ため池の管理

この対策以前は、水が利用できれば良いという考えだったため、荒れた状態でしたが、対策を利用して堤体の草刈や周辺通路の整備を行った結果、写真のおり自然の景観を呈すようになり地域住民からの評判は良くなっています。また、釣クラブ会員がため池周辺のゴミ拾いなどに協力をして、周辺美化を行っています。



ため池の景観

(5) 対策に取り組んで変化が見られたこと

協定面積は15ヘクタールと早野地区のごく一部であり、県内でも小規模な活動組織ではあるものの、組織の活動に刺激され、地区全域にこの活動が広がりつつあり、今後も周辺地域への波及効果が期待されています。

5. 今後の活動について

当地区は、30、40歳代の担い手がおり、このような若い人たちが今後の農業並びに共同活動の担い手になるであろうと、地元では考えています。

すでに営農組合（早野・早野東営農組合）も設立されており、将来的には若い担い手に作業委託をするような営農形態になると予想されます。集落の非農家の理解も進んできており、今後の共同活動に期待の持てる地区です。

